

# ◆ 大田区 ◆

# 中小企業の景況

平成 23 年 7 月～9 月期



## 目 次

平成 23 年 7 月～9 月期の都内中小企業の景況……………	1
大田区 今期の特徴点……………	2
製 造 業……………	3
小 売 業……………	9
日銀短観……………	14
東京都と大田区の企業倒産動向……………	14
特別調査「中小企業における災害等への取組状況 (事業継続計画(BCP))について」……………	15
中小企業景況調査 比較表・転記表……………	20

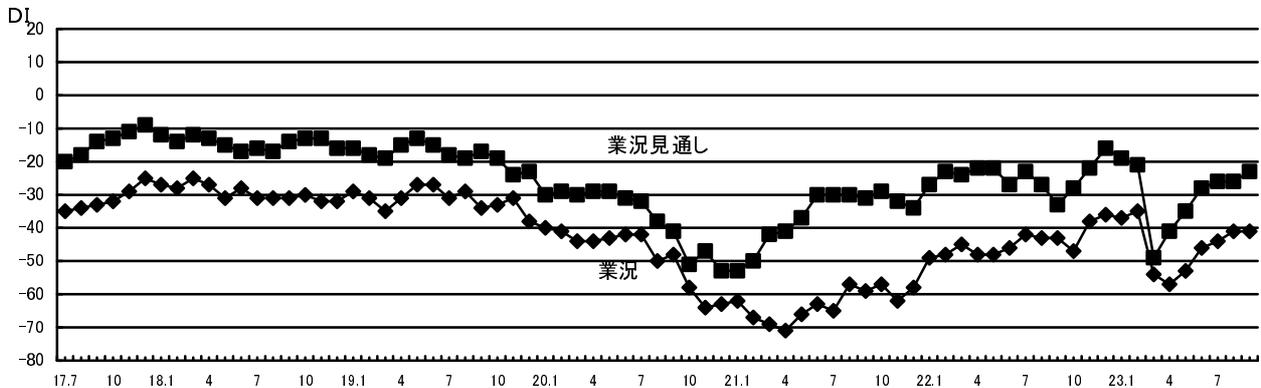
大田区産業経済部産業振興課

調査実施機関 株式会社 東京商工リサーチ

# 平成 23 年 7 月～9 月期の都内中小企業の景況

**業況：緩やかながら回復が続く**  
**見通し：上昇期待が続く**

## 都内中小企業の景況



業況DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－41（前期は－46）と前期比で5ポイント改善した。今後3か月の見通しでは大きく持ち直すが見込まれている。

	前期(23.6)	今期(23.9)	増減	今後3か月の見通し
製造業	-36	-29	7	-21
卸売業	-48	-46	2	-19
小売業	-62	-62	0	-34
サービス業	-41	-35	6	-18
総合	-46	-41	5	-23

9月の都内中小企業の業況DI（業況が「良い」とした企業割合－「悪い」とした企業割合）は前期比5ポイント増の▲41と、改善が続いている。今後3か月（10～12月）の業況見通しDIでは、今期比18ポイント増の▲23と、大きく上向くと予想されている。

都内中小企業の業況DIを業種別にみると、製造業（▲29）は7ポイント増、サービス業（▲35）は6ポイント増と大きく改善した。卸売業（▲46）は2ポイント増とやや厳しさが和らいだ。小売業（▲62）は2期連続で前期並の厳しさが続いている。なお、仕入価格DI（仕入単価が「上昇」とした企業割合－「低下」とした企業割合）をみると、製造業（9）は4ポイント減、卸売業（3）は5ポイント減と、前期に続いて上昇がやや弱まり落ち着きを見せた。小売業（0）は1ポイント増と前期並で推移している。一方、販売価格DI（販売単価が「上昇」とした企業割合－「低下」とした企業割合）は、製造業（▲7）は6ポイント増と厳しさが大きく和らぎ、小売業（▲12）は4ポイント増と下降幅が幾分縮小した。サービス業（▲18）は前期並の下降傾向で推移し、卸売業（▲8）は3ポイント減と、やや下降を強めた。

今後3か月（10～12月）の業況見通しDIを業種別にみると、製造業（▲21）は8ポイント増、サービス業（▲18）は17ポイント増と大きく改善し、卸売業（▲19）は27ポイント増、小売業（▲34）は28ポイント増と特に大きく改善が見込まれている。

### 【注】

○D. I (Diffusion Indexの略)

D. I (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季節済）D. I

季節済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD. Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD. I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

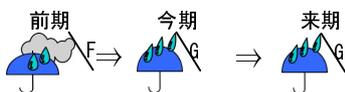
傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。

東京都産業労働局「中小企業の景況調査」より

# 大田区 今期の特徴点 (平成 23 年 7 月～9 月期)

景気予報						
大きく上昇	上 昇	やや上昇	横這い	やや下降	下 降	大きく下降

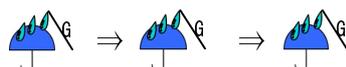
## 製 造 業



製造業の業況は、今期△34 と若干悪化傾向が強まった。売上額は△24 とやや低迷し、収益は△37 と大きく減益幅が拡大した。価格動向を見ると、原材料価格は 27 と上昇が大幅に弱まり、販売価格は△23 とわずかに下降幅が拡大した。在庫は 12 と過多感がかなり強まり、資金繰りは△28 と前期並の苦しさが続いた。

業況が若干悪化傾向を強めた要因としては、「売上額の低迷」「販売価格の下降幅が拡大」「在庫の過多感が強まった」などに見られる売上不振と、それらによる収益の悪化が考えられる。経営上の問題点でも「原材料高」が前期より減少したが、「売上の停滞・減少」「販売納入先からの値下げ要請」は増加した。

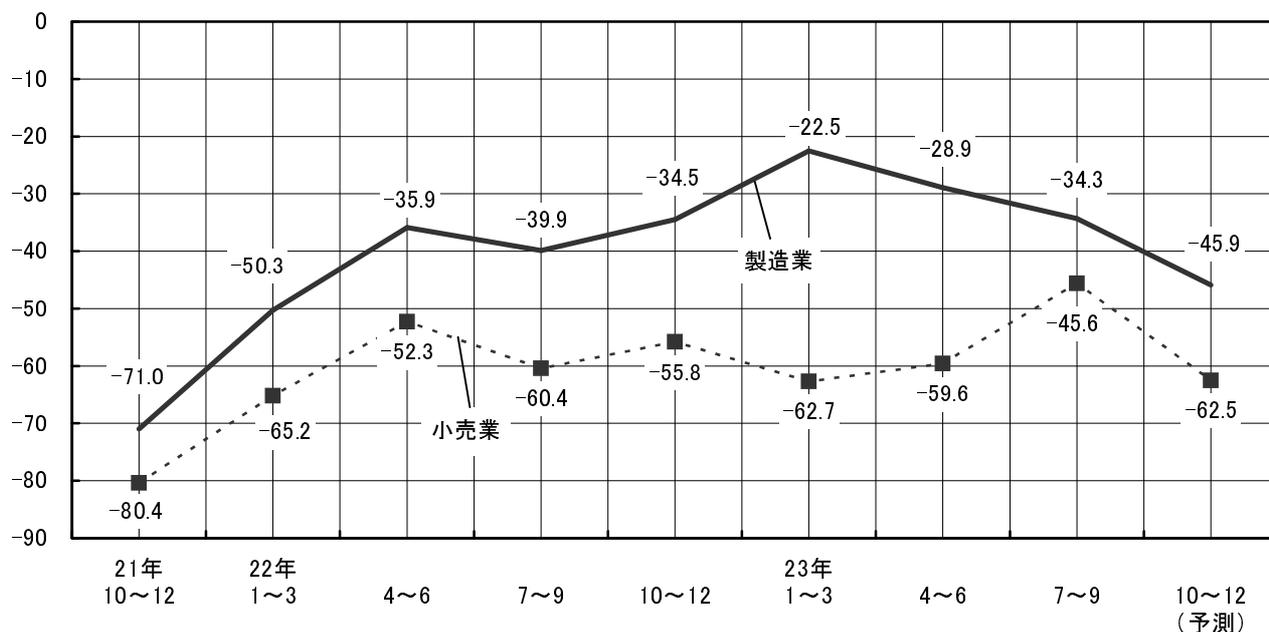
## 小 売 業



小売業の業況は、今期△46 と大幅に改善した。売上額は△35、収益は△39 とともに減少に大きく歯止めがかかった。価格動向を見ると、販売価格は△30 と前期同様の低下基調で推移し、仕入価格は 2 と上昇が多少弱まり落ち着きを見せた。在庫は 0 と調整が進んで適正水準となり、資金繰りは△44 と窮屈感がかなり緩和した。

業況が大幅に改善した要因としては、「売上額の減少に大きく歯止めがかかった」に見られる売上の改善と、それによる収益の改善が考えられる。経営上の問題点は「売上の停滞・減少」「商店街の集客力の低下」が前期より増加したが、「利幅の縮小」「同業者間の競争激化」「取引先の減少」は減少した。

## 各業種別業況の動き (実績) と来期の予測



# 製造業

## 売上・収益の動向と業況判断

今期の業況は△34 と、前期△29 から若干低調感を強めた。売上額は前期△21 から今期△24 と減少幅がやや拡大し、収益は前期△29 から今期△37 と減少を大幅に強めた。受注残は前期△25 から今期△29 とわずかに低迷した。

## 価格・在庫動向

原材料価格は前期 39 から今期 27 と上昇幅が大きく縮小し、販売価格は前期△21 から今期△23 と下降幅がやや拡大した。在庫は前期 6 から今期 12 と荷もたれ感がかなり強まった。

## 資金繰り・借入金動向

資金繰りは前期△29 から今期△28 と前期同様の厳しさを推移した。また、借入難易度は前期△13 から今期△7 と大幅に改善した。借入をした企業は今期 39%と、前期 26%から大きく増加した。

## 経営上の問題点・重点経営施策

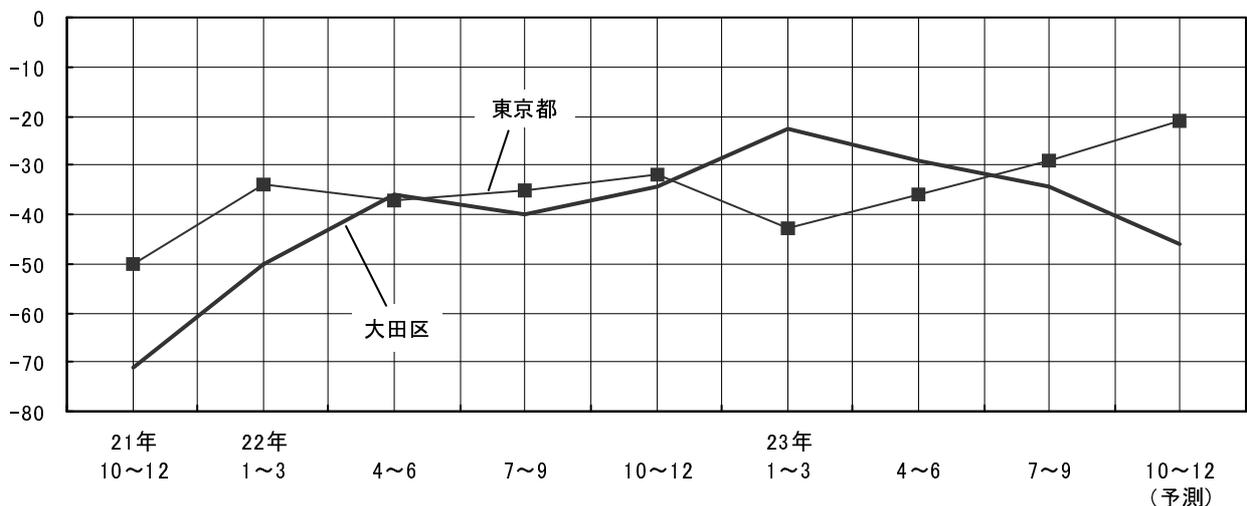
経営上の問題点については、1 位「売上の停滞・減少」71%、2 位「利幅の縮小」29%、3 位「原材料高」24%、4 位「同業者間の競争の激化」23%、5 位「販売納入先からの値下げ要請」17%となった。前期との比較で主だった動きは「売上の停滞・減少」は5ポイント増加、「販売納入先からの値下げ要請」は3ポイント増加し、一方で「原材料高」は8ポイント減少した。更に業種別にみると、「売上の停滞・減少」では[精密機械器具]（前期 61%→今期 76%）が15ポイント増加、[金属製品、建設用金属、金属プレス]（57%→67%）が10ポイント増加し、「販売納入先からの値下げ要請」では[電気機械器具]（13%→25%）が12ポイント増加した。

重点経営施策では、1 位「経費を節減する」57%、2 位「販路を広げる」49%、3 位「新製品・技術を開発する」25%、4 位「情報力を強化する」22%、5 位「人材を確保する」15%となり、三期連続で同順位となった。

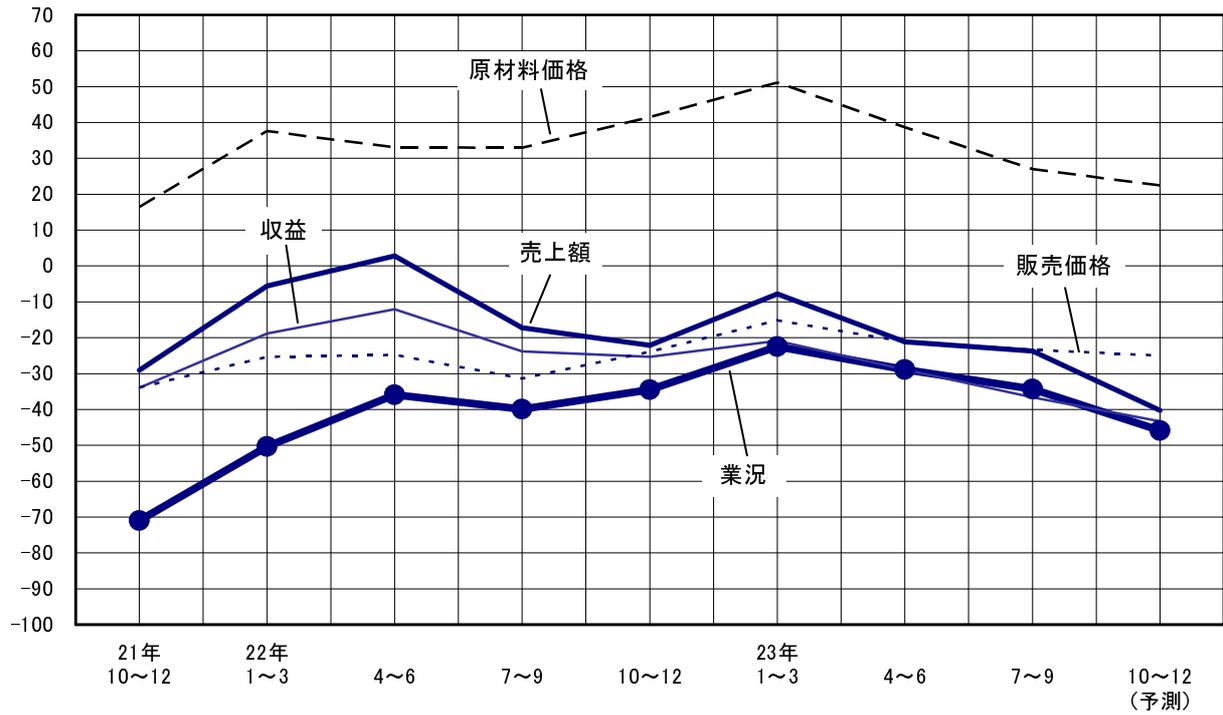
## 来期の見通し

来期は、業況は厳しさがかなり増し、売上額、収益はともに減少を大幅に強めると予測されている。また、原材料価格は上昇幅が若干縮小し、販売価格は下降幅がやや拡大すると見込まれている。

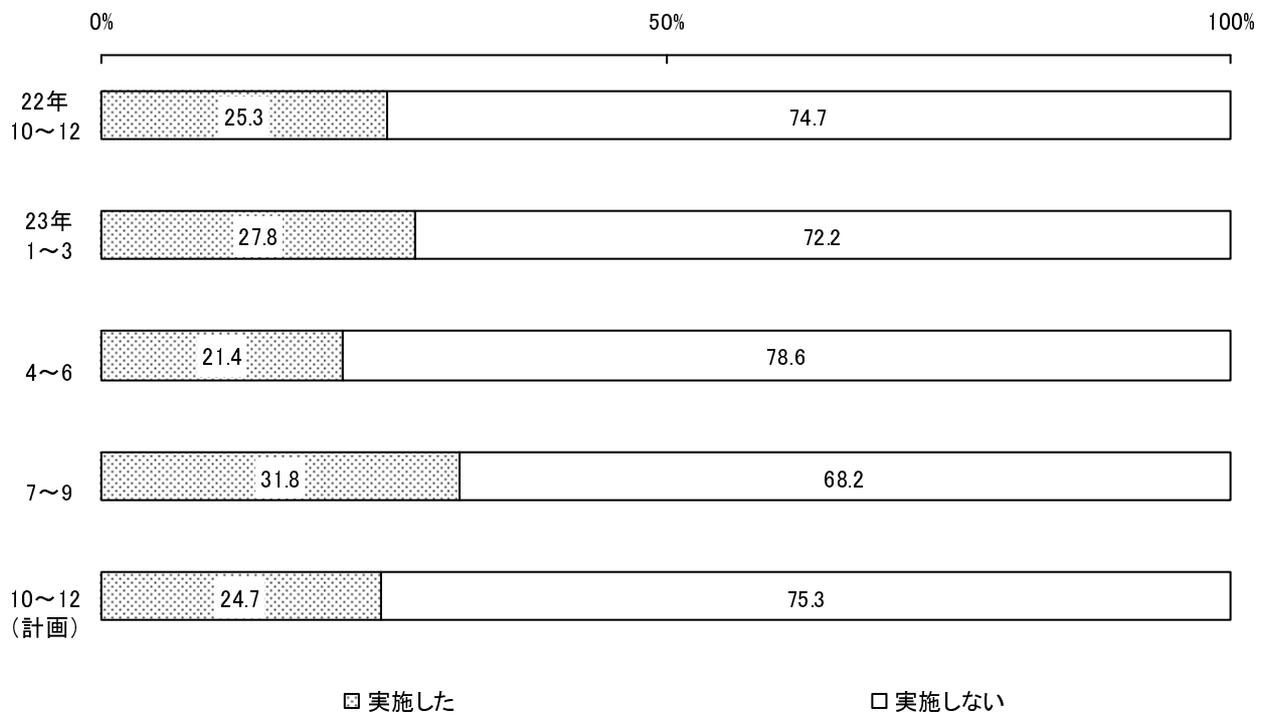
## 大田区と全都の製造業・業況の動き（実績）と来期の予測



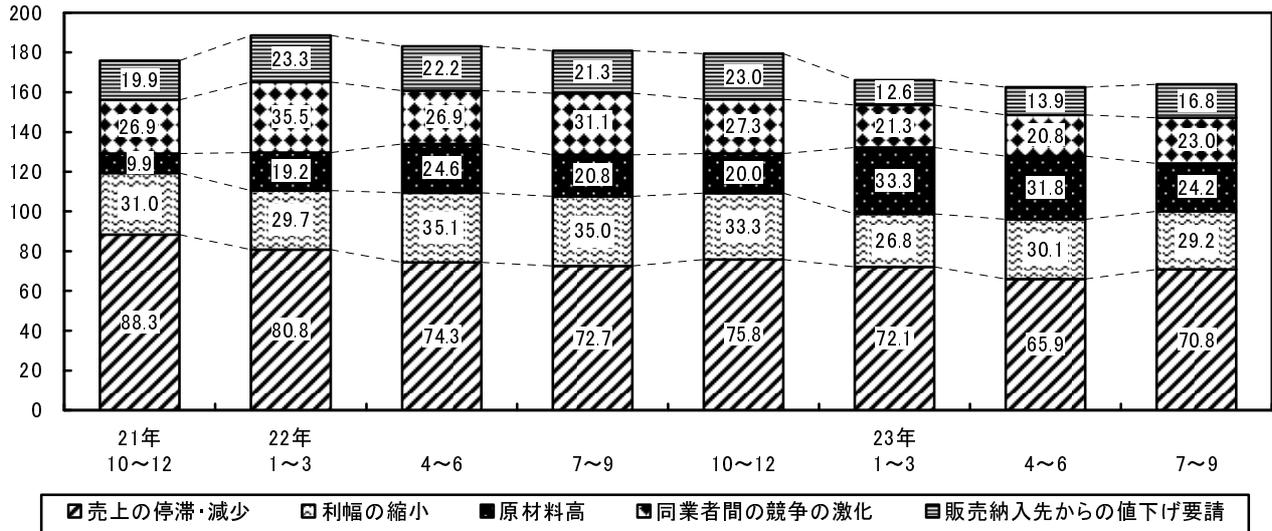
## 業況と売上額、収益、販売価格、原材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向

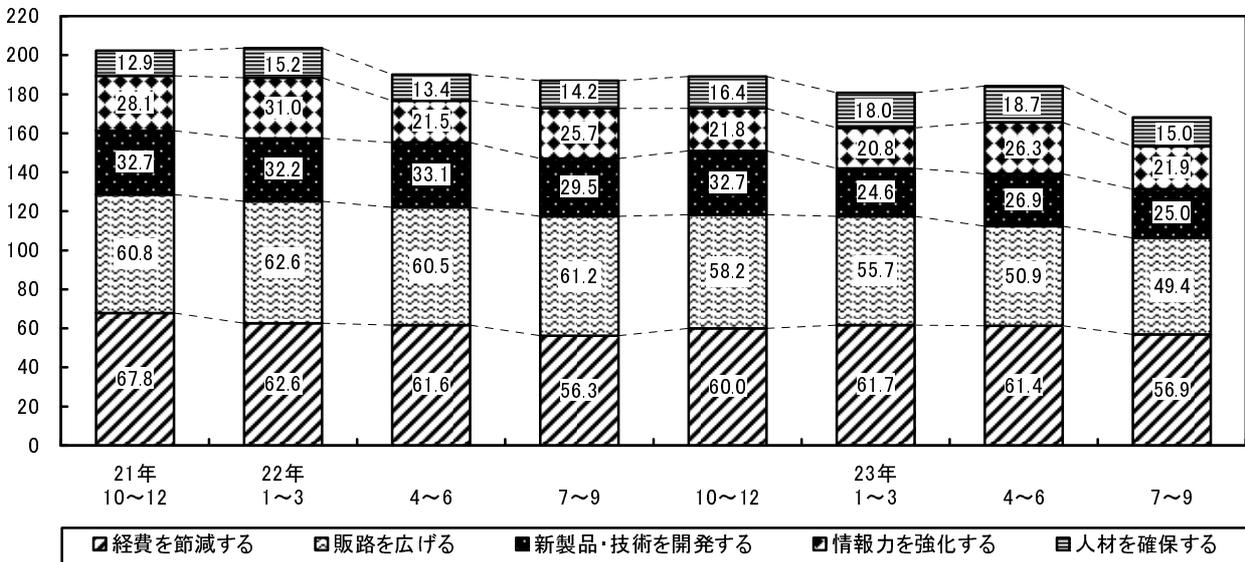


## 製造業 経営上の問題点 (%)



	22年10~12月期		23年1~3月期		23年4~6月期		23年7~9月期	
第1位	売上停滞・減少	75.8 %	売上停滞・減少	72.1 %	売上停滞・減少	65.9 %	売上停滞・減少	70.8 %
第2位	利幅の縮小	33.3 %	原材料高	33.3 %	原材料高	31.8 %	利幅の縮小	29.2 %
第3位	同業者間の競争の激化	27.3 %	利幅の縮小	26.8 %	利幅の縮小	30.1 %	原材料高	24.2 %
第4位	販売納入先からの値下げ要請	23.0 %	同業者間の競争の激化	21.3 %	同業者間の競争の激化	20.8 %	同業者間の競争の激化	23.0 %
第5位	原材料高	20.0 %	工場・機械の狭小・老朽化	17.5 %	工場・機械の狭小・老朽化	19.7 %	販売納入先からの値下げ要請	16.8 %

## 製造業 重点経営施策 (%)



	22年10~12月期		23年1~3月期		23年4~6月期		23年7~9月期	
第1位	経費を節減する	60.0 %	経費を節減する	61.7 %	経費を節減する	61.4 %	経費を節減する	56.9 %
第2位	販路を広げる	58.2 %	販路を広げる	55.7 %	販路を広げる	50.9 %	販路を広げる	49.4 %
第3位	新製品・技術を開発する	32.7 %	新製品・技術を開発する	24.6 %	新製品・技術を開発する	26.9 %	新製品・技術を開発する	25.0 %
第4位	情報力を強化する	21.8 %	情報力を強化する	20.8 %	情報力を強化する	26.3 %	情報力を強化する	21.9 %
第5位	教育訓練を強化する	17.0 %	人材を確保する	18.0 %	人材を確保する	18.7 %	人材を確保する	15.0 %

## 業種別動向

### (1) 輸送用機械器具

業況（前期 $\Delta 36$ →今期 $\Delta 28$ ）は大幅に上向いた。売上額（ $\Delta 16$ → $\Delta 12$ ）は若干回復の兆しが見られ、収益（ $\Delta 10$ → $\Delta 33$ ）は減益幅が極端に拡大した。価格動向を見ると、原材料価格（ $15$ → $42$ ）は上昇幅が特に大きく拡大し、販売価格（ $\Delta 25$ → $\Delta 27$ ）は下降をやや強めた。在庫（ $6$ → $\Delta 9$ ）は過剰から品薄へと大きく転じ、資金繰り（ $\Delta 32$ → $\Delta 38$ ）はかなり苦しさが強まった。

### (2) 電気機械器具

業況（ $\Delta 26$ → $\Delta 57$ ）は悪化幅が極端に拡大した。売上額（ $\Delta 17$ → $\Delta 30$ ）と収益（ $\Delta 30$ → $\Delta 39$ ）は、ともに大きく減少を強めた。原材料価格（ $55$ → $20$ ）は上昇幅が特に大きく縮小し、販売価格（ $\Delta 6$ → $\Delta 20$ ）は下降傾向を大幅に強めた。在庫（ $6$ → $25$ ）は過剰感が大きく強まり、資金繰り（ $\Delta 28$ → $\Delta 33$ ）は厳しさがわずかに増した。

### (3) 一般機械器具、金型

業況（ $\Delta 25$ → $\Delta 45$ ）は低調感を極端に強めた。売上額（ $\Delta 21$ → $\Delta 34$ ）と収益（ $\Delta 32$ → $\Delta 42$ ）は、ともに減少・減益幅が大きく拡大した。原材料価格（ $48$ → $41$ ）は上昇がかなり弱まり落ち着きを見せ、販売価格（ $\Delta 21$ → $\Delta 43$ ）は下降を特に大きく強めた。在庫（ $\Delta 1$ → $7$ ）は適正範囲から過剰へと推移し、資金繰り（ $\Delta 34$ → $\Delta 29$ ）は幾分改善した。

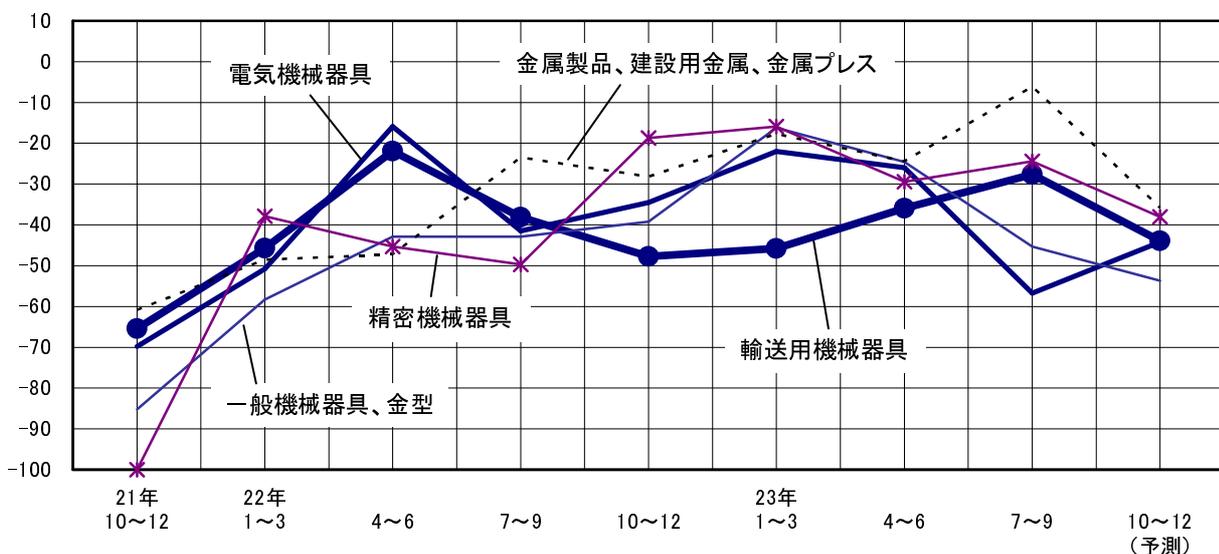
### (4) 金属製品、建設用金属、金属プレス

業況（ $\Delta 24$ → $\Delta 6$ ）は大幅に改善した。売上額（ $\Delta 14$ → $\Delta 15$ ）と収益（ $\Delta 26$ → $\Delta 25$ ）は、ともに前期並の減少が続いた。販売価格（ $\Delta 25$ → $\Delta 14$ ）は厳しさがかなり和らぎ、原材料価格（ $38$ → $24$ ）は上昇幅が大きく縮小した。在庫（ $4$ → $16$ ）は過多感が大幅に強まり、資金繰り（ $\Delta 34$ → $\Delta 15$ ）は窮屈感が大きく緩和した。

### (5) 精密機械器具

業況（ $\Delta 29$ → $\Delta 24$ ）は若干持ち直した。売上額（ $\Delta 23$ → $\Delta 19$ ）は減少幅が幾分縮小し、収益（ $\Delta 20$ → $\Delta 29$ ）は大きく低迷した。販売価格（ $\Delta 16$ → $\Delta 11$ ）は下降傾向が多少改善し、原材料価格（ $38$ → $33$ ）は上昇幅が若干縮小した。在庫（ $6$ → $8$ ）は過多感がやや強まり、資金繰り（ $\Delta 19$ → $\Delta 20$ ）は前期同様の厳しさで推移した。

業種中分類別の業況の動き（実績）と来期の予測



## コメント《製造業》

### ＜輸送用機械器具＞

1. 平行線である。
2. 売上 UP、経費節減に努力しているが、赤字体質から中々脱却できない。
3. 対応しているトラック業界が4月、5月と震災で部品が入らず、生産が止まっていたため、4～6月は例年の半分以下の売上だった。6月以降回復しており、7～9月はやっと一息ついた。更に10～12月も4～6月分をカバーするため、高稼働の予定。
4. このところの円高、大手の値下げの要求で年内はかなり厳しいかと思う。何があってもおかしくない。政治家は早く予算をつけ復興に回してほしい。
5. 円高の影響がこれから種々出てくる。最近発注先より、「国内の生産が海外へ出ていき、発注が減少する」という話が多い。

### ＜電気機械器具＞

1. リーマンショックの落ち込みから、ますます堅調に回復へ推移している。
2. 震災の影響（部材の調達難等）もやっと平常並になり、安心している。業績は月に違って違うが、横這いの状態。
3. 受注は少しずつ増えてきたが、得意先より価格の値下げをその都度言われている。利幅が少なくなって困る。
4. 震災復興に伴う、所謂特需に期待したいが、まだ先になりそうなので、それまでの繋ぎをどうするか考えている。
5. 受注の山、谷が解消されない。
6. 2、3か月先が見えない経営状況である。
7. 政治の不安定が日本を駄目にしてている。先が見えない不安。恐ろしい。
8. 親企業の欧米向け輸出が停滞し、下期（10月～）は下降へ。
9. 仕事の出来る社員が少ない。
10. 親会社の円高による中国への製品シフトの為、今後は苦しい状況になる。
11. 一部の人の仕事があるだけで、大部分は休業状態。
12. 当社も鉄道（軌道）の関係の仕事が多く、東北の災害の影響で関連の仕事が50%減であり、今は辛抱のみである。
13. 減収減益の継続。

### ＜一般機械器具、金型＞

1. 後半になり、少し業績がアップした。

2. 7月の売上は最低だったが、得意先の上半期決算の為の仕事増で8、9月は盛り返した。10月以降の受注の見返りは厳しそうである。
3. リーマンショック以降、売上が減少していたが、徐々にではあるが微増傾向にある。
4. リーマンショック後から為替、円高の為、客先（大手自動車メーカー）が海外に生産拠点を拡充するスピードを加速している。更に震災による客先の生産ダウン及びストップは国内の中小企業の仕事を大いに減少させている。今後もこの傾向は続くであろうことから、海外進出可能な企業は別として、大半の中小企業は存続できなくなるのではないかと危惧している。
5. 来期以降、半導体メーカーの設備抑制に依り、製造装置の部品を製作する。当社には厳しい状況になると思われる。
6. 仕事量の減少により、資金繰りが悪化し、倒産の方向に向かっている。
7. 静かに確実に悪くなっている。
8. 震災後、受注が減少している。
9. 受注が少なく、採算が取れない。
10. 円高で取引先がタイ国に工場を建設し、資材を現地調達し、自社内で部品のASSY化を始めたことにより、日本での生産が縮小し、当社の売上も今後減少に向かう。
11. 公共土木工事の関係資材を販売しているが、河川、海岸工事関係の為、今期はほとんど注文が集まらなかった。東北の復興工事に期待をしている。
12. 廃業しようと思っている。

### ＜金属製品、建設用金属、金属プレス＞

1. 緩やかに販売増加。
2. 前年度に比べ、多少売上が回復してきた。
3. 人材の若返りを図りたいと思う。
4. 3月11日の震災の影響は5月末で終わり、6月から震災前に戻りつつある。業績は前年度比、増収増益となっている。
5. 需要が低迷している。価格面、同業者間競争等において、今後一層厳しい状況が続くと思われる。
6. 米国の金融不安後から長くこの状況が続いている。もう少し頑張ってみる。
7. 非常に厳しいが、頑張っている。
8. 円高の影響で大企業の海外流出が心配。
9. 円高で来年が心配。
10. 今期は前期（9月決算）より3%、売上及び

経常利益が伸びたが、実感として全く変化していない。景気の全体的な上昇は全く見られない。

11. 円高、震災などによる受注のストップで元気なし。
12. 円高で来年が心配。
13. 受注減による売上の減少。
14. 社長の私は 76 歳で、具合が悪く病院通い。来年中は工場をやめる予定である。
15. 後継者がいない為、2、3 年先廃業する。

#### <精密機械器具>

1. 非常に良い。
2. 震災以降、受注金額が低迷したが、10 月より増加傾向にある。しかし、この傾向が持続的なものなのか一時的なものなのか、先を読みとることはできない。
3. 社長と社員 2 人だけの当社のため、前途の期待はない。よほどの好景気になれば状況も変わると思う。
4. 当社は計測センサーを造っているので、景気の影響をもろに受け易い。
5. 弊社は航海計器の保守がメイン。物流関係の内、現在のところ海運関係は良くない。
6. 円高による価格交渉が多いので、対策をしてほしい。

# 小 売 業

## 売上・収益の動向と業況判断

業況は、前期△60 から今期△46 と大きく改善傾向が見られた。売上額は前期△52 から今期△35、収益は前期△54 から今期△39 と、ともに大幅に持ち直した。

## 価格・在庫動向

販売価格は前期△29 から今期△30 と前期並の下降が続き、仕入価格は前期 5 から今期 2 と上昇がやや弱まり落ち着きを見せた。在庫は前期 8 から今期 0 と過剰から適正水準へと大きく推移した。

## 資金繰り・借入金動向

資金繰りは前期△50 から今期△44 と厳しさがかなり和らいだ。借入難易度は前期△23 から今期△17 と大幅に改善した。今期借入れを実施した企業は、前期 25%から今期 40%と大幅に増加した。

## 経営上の問題点・重点経営施策

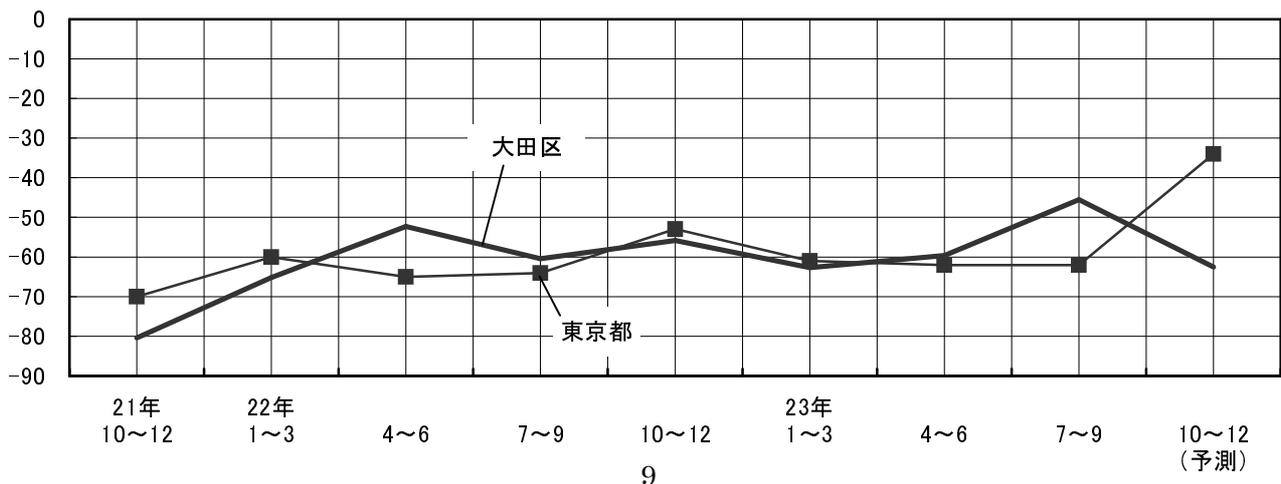
経営上の問題点は、1 位「売上の停滞・減少」が 74%と最も多く、以下、2 位「利幅の縮小」26%、3 位「商店街の集客力の低下」24%、4 位「同業者間の競争の激化」20%、5 位「取引先の減少」18%となった。前期との比較で主だった動きは「売上の停滞・減少」は 5 ポイント増加、「商店街の集客力の低下」は 9 ポイント増加したが、「利幅の縮小」は 5 ポイント減少、「同業者間の競争の激化」は 8 ポイント減少、「取引先の減少」は 5 ポイント減少した。更に業種別にみると、「利幅の縮小」では[飲食店]（前期 29%→今期 18%）が 11 ポイント減少し、「同業者間の競争の激化」では[衣服・身の回り品]（31%→12%）が 19 ポイント減少、[飲食店]（29%→18%）が 11 ポイント減少、[飲食品]（27%→16%）が 11 ポイント減少し、「取引先の減少」では[飲食店]が（29%→0%）が 29 ポイント減少し、[家具・家電・医薬品]（31%→11%）が 20 ポイント減少した。

重点経営施策については、1 位「経費を節減する」55%、2 位「品揃えを改善する」36%、3 位は「宣伝・広報を強化する」と「売れ筋商品を取扱う」がともに 21%、4 位は「教育訓練を強化する」20%となった。「品揃えを改善する」と「売れ筋商品を取扱う」が入れ替わったものの、前期と同項目が並んだ。

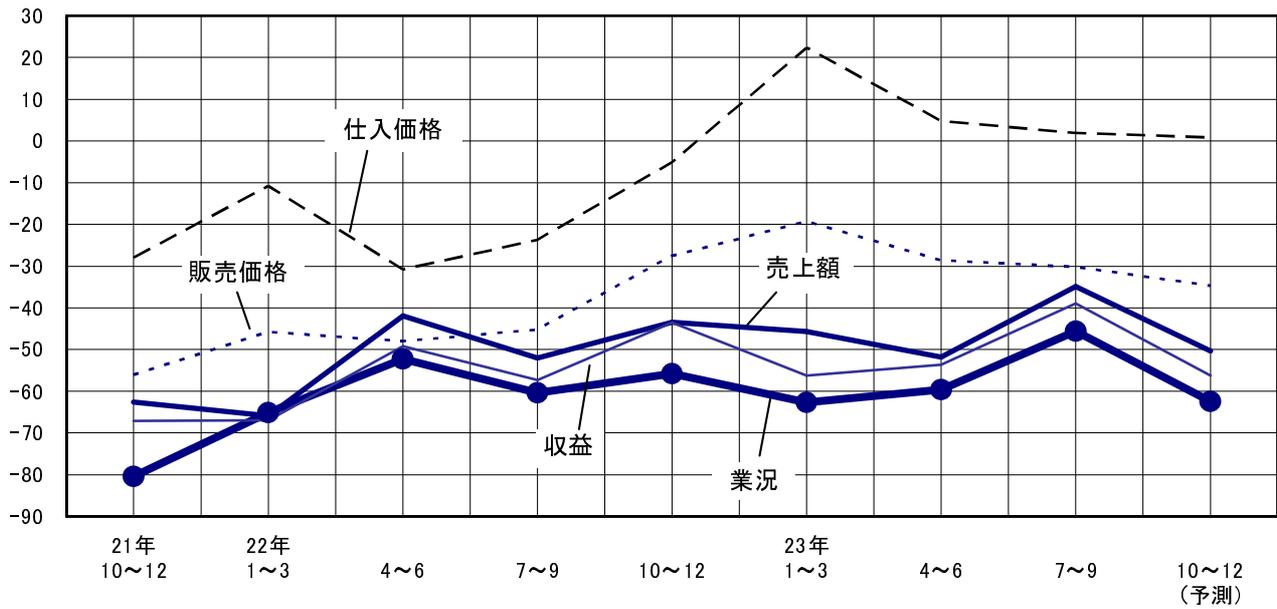
## 来期の見通し

来期の見通しについては、業況は深刻さをかなり増し、売上額と収益はともに減少を大きく強めると見込まれている。販売価格は下降幅をわずかに拡大し、仕入価格はほぼ横這いで推移すると予測されている。

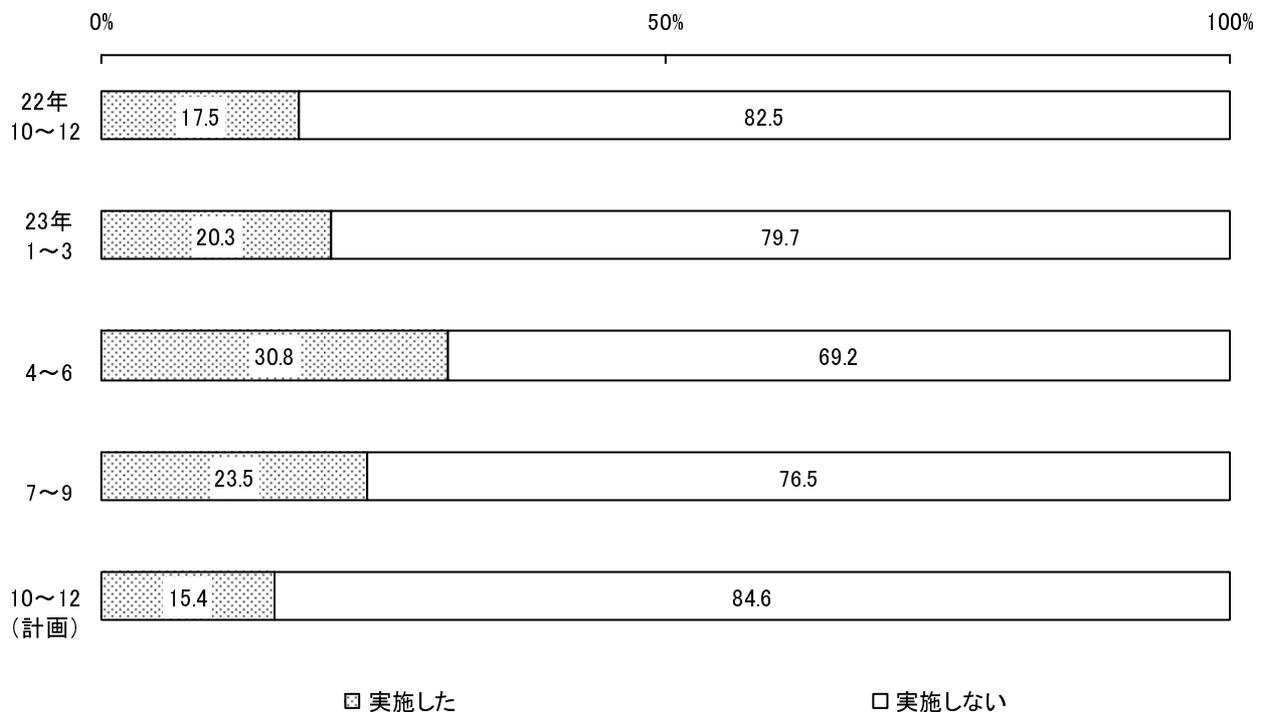
## 大田区と全都の小売業・業況の動き（実績）と来期の予測



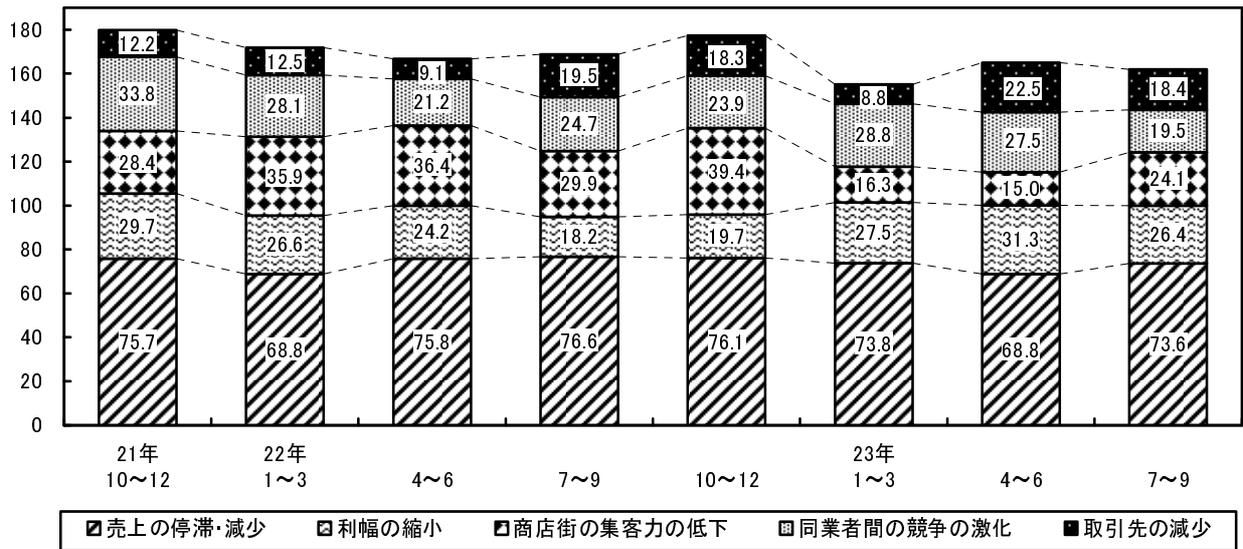
## 業況と売上額、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向

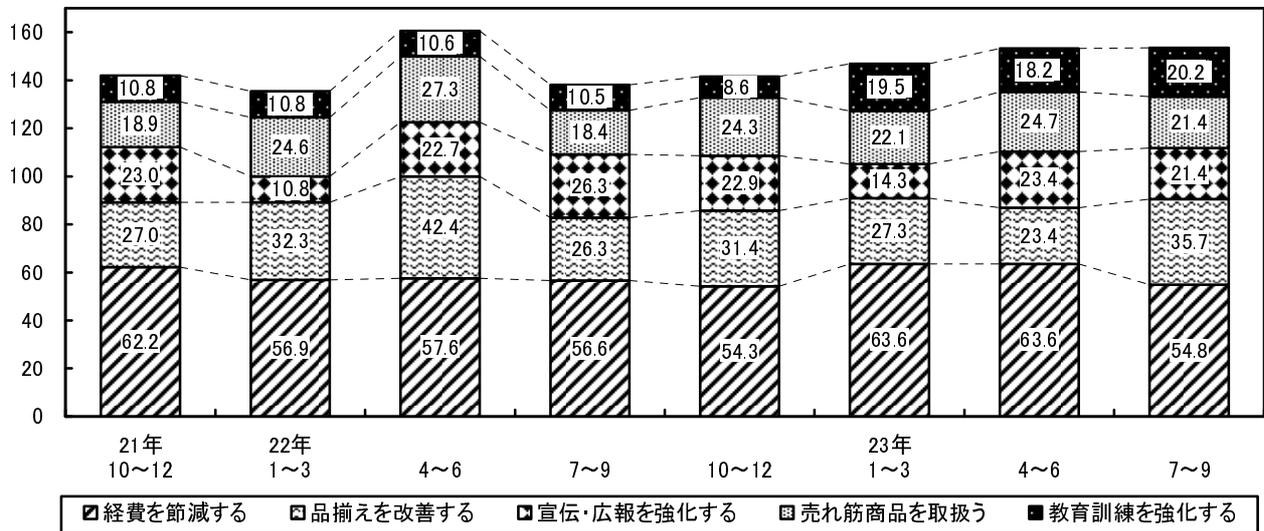


## 小売業 経営上の問題点 (%)



	22年10~12月期	23年1~3月期	23年4~6月期	23年7~9月期
第1位	売上の停滞・減少 76.1 %	売上の停滞・減少 73.8 %	売上の停滞・減少 68.8 %	売上の停滞・減少 73.6 %
第2位	商店街の集客力の低下 39.4 %	同業者間の競争の激化 28.8 %	利幅の縮小 31.3 %	利幅の縮小 26.4 %
第3位	同業者間の競争の激化 23.9 %	利幅の縮小 27.5 %	同業者間の競争の激化 27.5 %	商店街の集客力の低下 24.1 %
第4位	利幅の縮小 19.7 %	仕入先からの値上げ要請 18.8 %	取引先の減少 22.5 %	同業者間の競争の激化 19.5 %
第5位	取引先の減少 18.3 % 大型店との競争の激化 18.3 %	商店街の集客力の低下 16.3 %	大型店との競争の激化 17.5 %	取引先の減少 18.4 %

## 小売業 重点経営施策 (%)



	22年10~12月期	23年1~3月期	23年4~6月期	23年7~9月期
第1位	経費を節減する 54.3 %	経費を節減する 63.6 %	経費を節減する 63.6 %	経費を節減する 54.8 %
第2位	品揃えを改善する 31.4 %	品揃えを改善する 27.3 %	売れ筋商品を取扱う 24.7 %	品揃えを改善する 35.7 %
第3位	売れ筋商品を取扱う 24.3 %	売れ筋商品を取扱う 22.1 %	品揃えを改善する 23.4 % 宣伝・広報を強化する 23.4 %	宣伝・広報を強化する 21.4 % 売れ筋商品を取扱う 21.4 %
第4位	宣伝・広報を強化する 22.9 %	仕入先を開拓・選別する 19.5 % 教育訓練を強化する 19.5 %	教育訓練を強化する 18.2 %	教育訓練を強化する 20.2 %
第5位	仕入先を開拓・選別する 20.0 %	新しい事業を始める 16.9 %	仕入先を開拓・選別する 15.6 %	仕入先を開拓・選別する 14.3 %

## 業種別動向

### (1) 家具、家電、医薬品

業況（前期 $\Delta 36$ →今期 $\Delta 30$ ）は厳しさがかなり和らいだ。売上額（ $\Delta 32$ → $\Delta 25$ ）と収益（ $\Delta 41$ → $\Delta 30$ ）はともに大幅に持ち直した。仕入価格（ $\Delta 40$ → $\Delta 10$ ）は下降幅が極端に縮小し良好感にかげりが見られ、販売価格（ $\Delta 44$ → $\Delta 43$ ）は前期並の下降が続いた。在庫（ $9$ → $14$ ）は荷もたれ感が多少強まり、資金繰り（ $\Delta 33$ → $\Delta 32$ ）は前期同様の厳しさを推移した。借入難易度（ $17$ → $19$ ）は容易さがわずかに増し、借入れをした企業（ $19\%$ → $44\%$ ）は極端に増加した。

### (2) 飲食店

業況（ $\Delta 82$ → $\Delta 41$ ）は悪化幅が極端に縮小した。売上額（ $\Delta 100$ → $\Delta 11$ ）と収益（ $\Delta 80$ → $\Delta 42$ ）はいずれも特に大きく改善した。販売価格（ $\Delta 47$ → $14$ ）は特に大幅に好転し、仕入価格（ $6$ → $41$ ）は極端に上昇が強まった。在庫（ $1$ → $12$ ）は適正範囲から過剰へと大きく推移し、資金繰り（ $\Delta 62$ → $\Delta 34$ ）は窮屈感が極端に緩和した。借入難易度（ $0$ → $\Delta 6$ ）は厳しい状況に大幅に推移し、借入れをした企業（ $14\%$ → $30\%$ ）は大きく増加した。

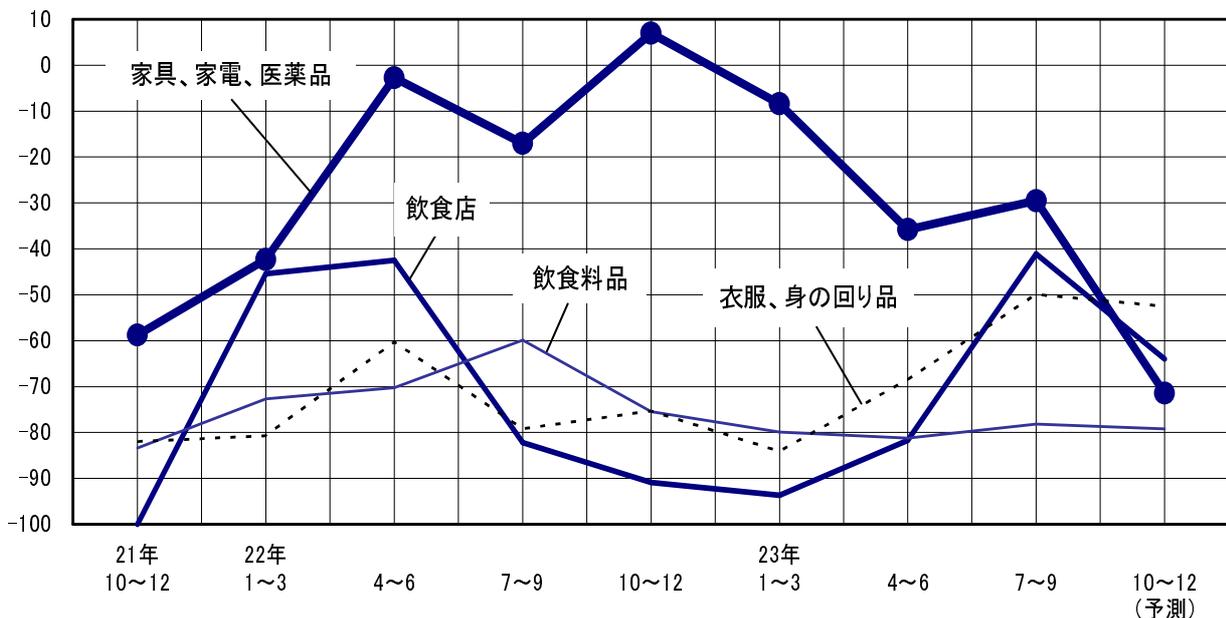
### (3) 飲食料品

業況（ $\Delta 81$ → $\Delta 78$ ）はわずかに上向いた。売上額（ $\Delta 70$ → $\Delta 64$ ）は大きく回復の兆しが見られ、収益（ $\Delta 70$ → $\Delta 72$ ）は減少をやや強めた。仕入価格（ $49$ → $37$ ）は上昇幅が大きく縮小し、販売価格（ $\Delta 2$ → $\Delta 36$ ）は極端に下降を強めた。在庫（ $\Delta 15$ → $\Delta 3$ ）は品薄感がかなり緩和し、資金繰り（ $\Delta 64$ → $\Delta 50$ ）は大幅に改善した。借入難易度（ $\Delta 29$ → $\Delta 50$ ）は極端に厳しさが増し、借入れをした企業（ $20\%$ → $41\%$ ）は特に大幅に増加した。

### (4) 衣服、身の回り品

業況（ $\Delta 69$ → $\Delta 50$ ）は水面下ながら大きく改善した。売上額（ $\Delta 50$ → $\Delta 49$ ）は前期同様の減少幅で推移し、収益（ $\Delta 48$ → $\Delta 65$ ）は大幅に低迷した。仕入価格（ $\Delta 24$ → $\Delta 34$ ）は大きく低下して良好感が強まり、販売価格（ $\Delta 55$ → $\Delta 46$ ）は厳しさがかなり和らいだ。在庫（ $24$ → $\Delta 3$ ）は過剰から品薄へと特に大きく転じ、資金繰り（ $\Delta 59$ → $\Delta 63$ ）は窮屈感が多少強まった。借入難易度（ $\Delta 14$ → $\Delta 13$ ）は前期同様の厳しさが続き、借入れをした企業（ $31\%$ → $35\%$ ）は幾分増加した。

業種中分類別の業況の動き（実績）と来期の予測



## コメント《小売業》

### ＜家具、家電、医薬品＞

1. 地デジ化とエコポイントで今年前半は売上増となった。今後は太陽光発電をその代わりにしたいと考えている。
2. 電気店はエコポイント、地デジ対策にて売上増だと思ふ。今後は不安状況となる。又、建築工事等が減少している為、利益幅減少。
3. 増税ばかりが先行し、日本の景気は悪化が予想される。海外進出も視野に入れて、そろそろ準備を始める。
4. 地元商店街にて30年強家電販売、サービス、電気工事等やっている。この5年～10年位前から売上が少なくなり、現在はピーク時の半以下。以前は社員も6人程いたが、現在は3人のみで、給料等も減額して何とか頑張っている。我々の商売は若い人が全く来ない。皆、量販店やテレビショッピング等で買っていると思う。特に驚いたのは、向かいに2年前100世帯程のマンションが完成して入居しているが、1人も当店の家電品購入された方はいなかった。尚、当大森南地区に3年前迄は家電店が6店舗あったが、現在は2店舗のみである。
5. あと2～3年は持つが、今は借入金の自転車操業でやるしかない状況である。
6. 電気店。大型店とは競争にもならない。来年度は真っ暗闇。
7. 国内の景気に左右される販売商品（事務用品）なので、まずは国内で会社が元気にならないと良くならない。
8. 最悪。
9. 社会の不況に売上が上がらない。

### ＜飲食店＞

1. 大企業が数社撤退し、宴会はなく、売上は激減。
2. リーマンショック後に仕入価格が全体的に上がったが、飲食代の値上げはしなかった。しかし、このままでは赤字が拡大するばかりなので、今後はメニューの中で、値上げ可能なものは少し上げていくことになりそうである。
3. 3月の震災による大きな被害は受けなかったが、水周りの修理が必要になった店舗があった。原発事故により中国人の従業員が帰国してしまい、半月程閉店した店があり、売上が減少。今期は赤字となってしまった。

### ＜飲食料品＞

1. 3月11日の災害による予約の取り消しが相次ぎ、かなりのダメージ。少しずつの回復。
2. 北馬込に大型安売り店が出来すぎて、商店街は一つ一つ灯りがなくなってしまう。
3. 厳しい状況が続いている。震災後の消費行動の変化に対応していかなければと思っている。
4. 主力商品が三陸産の海藻なので、来年の収穫である3月まではどうにもならない。
5. 商店街に人通りが減少。客数も減って売上ダウン。大型店との競争が激しくなったと思う。スーパー、コンビニも自店と同じものを売り出したのが、理由かもしれない。

### ＜衣服、身の回り品＞

1. 一昨年、昨年と厳しい状況だったが、今年は昨年比110%と増加傾向にあり、荒利も5%改善した。しかし、まだ利益体質になっておらず、更に改善していく所存である。
2. 3月の深刻な売上の急減速が、4月以降急速に回復。様々な要因はあるが、特に年配の女性客の「金離れの良さ」を感じる。「節電」というキーワードに対する関連商品の売上増や、「お金を持っていても仕方がないから」という消費者の気持ちの変化を感じる。秋以降も、消費を促す「キーワード」が大切に思う。
3. 呉服小売店。着物着用減少。七五三、成人式等はリースで済ます人が多い。
4. 需要が少なくなった。
5. 「商店街の活性化」にヒントを頂きたい。20年間何もなし。マンネリ化。
6. 売上、利益共に減少には苦勞している。
7. 経済状況が悪く、自然災害も多く、消費ムードが上がらない。顧客の来店頻度が極度に悪くなっている。景気回復を望む。
8. スクラップ、又はスクラップアンドビルド。資源の集中効率を図る。永年実行出来なかったスクラップを来年は成し遂げたい。
9. オーダーメイド紳士服の製造販売業。10月迄クールビズの方針だが、9月20日迄30度以上の高温。これ程やりにくい年は初めてである。大田区は特に紳士服屋の商売がやりにくい地域。最後迄残る店にする為に頑張る。
10. 売上の減少で資金繰りが苦しい。
11. 3月11日以降消費マインドが上がらず、物販の売上減少が続いており、欧州・米国等の不況の連鎖を感じる。又、長引く円高の影響も大きいと思う。

# 日銀矢野観

[調査対象企業数]

(2011年9月調査)

	製造業	非製造業	合計	回答率
全国企業	4,369社	6,541社	10,910社	98.8%
うち大企業	1,184社	1,171社	2,355社	99.1%
中堅企業	1,177社	1,800社	2,977社	99.0%
中小企業	2,008社	3,570社	5,578社	98.7%
金融機関	—	—	201社	98.5%

(参考)事業計画の前提となっている想定為替レート(大企業・製造業) (円/ドル)

	2010年度		2011年度		
	上期	下期	上期	下期	
2011年6月調査	86.03	89.00	83.05	82.59	82.59
2011年9月調査	—	—	—	81.15	81.26

[売上高・収益計画]

(前年度比・%)

		2010年度		2011年度	
		修正率	(計画)	修正率	
大企業	製造業	6.9	—	4.1	1.2
	国内	3.7	—	4.8	2.1
	輸出	16.1	—	2.4	-1.0
	非製造業	4.7	—	2.4	0.2
	全産業	5.6	—	3.1	0.6
中堅企業	製造業	7.5	—	2.9	0.0
	非製造業	4.0	—	1.4	0.4
	全産業	4.9	—	1.8	0.3
中小企業	製造業	5.5	—	0.7	0.4
	非製造業	0.7	—	-0.7	0.3
	全産業	1.7	—	-0.4	0.3
全規模合計	製造業	6.8	—	3.3	0.9
	非製造業	3.4	—	1.3	0.3
	全産業	4.5	—	2.0	0.5

(注) 修正率・幅は、前回調査との対比

[業況判断]

(「良い」 - 「悪い」・%ポイント)

	2011年6月調査		2011年9月調査			
	最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
<b>大企業</b>						
製造業	-9	2	2	11	4	2
非製造業	-5	-2	1	6	1	0
全産業	-8	0	1	9	3	2
<b>中堅企業</b>						
製造業	-12	-7	-3	9	-2	1
非製造業	-17	-16	-8	9	-10	-2
全産業	-15	-13	-6	9	-7	-1
<b>中小企業</b>						
製造業	-21	-15	-11	10	-12	-1
非製造業	-26	-29	-19	7	-22	-3
全産業	-24	-24	-16	8	-18	-2
<b>全規模合計</b>						
製造業	-15	-8	-5	10	-5	0
非製造業	-20	-20	-12	8	-14	-2
全産業	-18	-15	-9	9	-11	-2

[需給・在庫・価格判断]

(%ポイント)

		2011年6月調査		2011年9月調査			
		最近	先行き	最近	変化幅	先行き	変化幅
国内での製商品・サービス需給判断 〔「需要超過」-「供給超過」〕	製造業	-29	-28	-27	2	-28	-1
	うち素材業種	-36	-33	-33	3	-33	0
	加工業種	-25	-25	-23	2	-26	-3
	非製造業	-33	-36	-35	-2	-36	-1
海外での製商品需給判断 〔「需要超過」-「供給超過」〕	製造業	-13	-13	-14	-1	-16	-2
	うち素材業種	-21	-19	-21	0	-24	-3
	加工業種	-9	-9	-9	0	-10	-1
	非製造業	—	—	—	—	—	—
製商品在庫水準判断 〔「過大」-「不足」〕	製造業	15	—	16	1	—	—
	うち素材業種	18	—	20	2	—	—
	加工業種	13	—	14	1	—	—
	非製造業	—	—	—	—	—	—
製商品流通在庫水準判断 〔「過大」-「不足」〕	製造業	15	—	17	2	—	—
	うち素材業種	25	—	24	-1	—	—
	加工業種	8	—	14	6	—	—
	非製造業	—	—	—	—	—	—
販売価格判断 〔「上昇」-「下落」〕	製造業	-15	-13	-15	0	-17	-2
	うち素材業種	-6	-3	-8	-2	-9	-1
	加工業種	-19	-20	-19	0	-23	-4
	非製造業	-24	-24	-22	2	-23	-1
仕入価格判断 〔「上昇」-「下落」〕	製造業	33	42	29	-4	35	6
	うち素材業種	38	43	31	-7	36	5
	加工業種	30	41	27	-3	35	8
	非製造業	18	24	12	-6	17	5

## 東京都と大田区の企業倒産動向 (平成23年9月)

### 1. 東京都の倒産概況

(単位: 件・億円)

	平成22年9月	平成23年8月	平成23年9月	前月比	前年同月比
	件数	193	200		
金額	11,675	418	464	46	-11,211

### 2. 原因別倒産動向

(単位: 件・億円)

	放漫経営	過小資本	他社倒産の余波	既住のしわ寄せ	販売不振
5	35	3	1	9	141
19	89	151	162		
	売掛金回収	信用性低下	在庫状態悪化	設備投資過大	その他
1	2	0	0	0	0
5	32				

### 3. 業種別・規模別倒産動向

(単位: 件・億円)

	件数			金額		
	前年同月	前月	当月	前年同月	前月	当月
製造業	23	24	27	46	36	46
卸売業	39	33	39	82	61	40
小売業	18	17	15	27	75	40
サービス業	27	38	29	180	32	169
建設業	33	38	34	45	70	32
不動産業	8	8	9	15	8	8
情報通信業・運輸業	28	21	29	104	37	74
宿泊業・飲食サービス業	8	16	7	1	23	13
その他	9	5	4	11,172	71	38
合計	193	200	193	11,672	413	460

### 4. 大田区内の平成23年9月の倒産動向

業種	件数	負債総額
製造業	4件	17.5百万円
卸売業	0件	0百万円
小売業	0件	0百万円
サービス業	0件	0百万円
建設業	1件	10百万円
不動産業	1件	13百万円
情報通信業・運輸業	0件	0百万円
宿泊業・飲食サービス業	0件	0百万円
その他	0件	0百万円
合計	6件	19.8百万円

(株)東京商工リサーチ調べ

